

## 【中野市】校務DX計画

		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
共通項目	FAX・押印の原則廃止に取り組んだ学校の割合	90%	100%	-	-	-
	不合理な手入力作業の一扫に取り組んだ学校の割合	90%	100%	-	-	-
	クラウド環境を活用した校務DXの徹底に取り組んだ学校の割合	100%	-	-	-	-
選択項目	3.学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスを用いて一斉配信している学校の割合	100%	-	-	-	-
	9.1人1台端末を児童生徒に持ち帰らせ、家庭で利用できるようにしている学校の割合	50%	100%	-	-	-
	16.職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化している学校の割合	50%	-	-	-	-
課題と解決策の具体	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の異動に伴い、取り組んでいた校務DXの方法等がうまく引き継がれていない。</li> <li>・他自治体との環境に差があるため、異動後については1から手順を覚えてもらう手間が生じる</li> </ul>				
	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題の解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に研修会等を実施し、中野市の校務DXの在り方について、早期の浸透を図る。また、研修会資料等の簡略化を行い、短時間の研修を行えるよう資料等の見直し、作成を行う。</li> <li>・他自治体との情報共有を密に図るため、定期的に連絡会等を開催する。</li> </ul>				
	校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、望ましい校務の在り方に関する検討の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7年度以降で既存の校務環境の更新に向けた検討を行う。</li> </ul>				